

草津市子ども・子育てシンポジウム（概要）

日時：平成 25 年 7 月 7 日（日）13:15～16:15

場所：草津市役所 2 階特大会議室

プログラム：

- (1) あいさつ（草津市長）
- (2) 基調講演（山縣文治氏）
- (3) 幼保一体化検討状況の報告
- (4) パネルディスカッション

(1) 市長あいさつ

(2) 基調講演（山縣文治氏）

- ・草津の出生者数と死亡者数について。全国では出生数に対して死亡者数が約 3 倍となっているが、草津市では直近の出生者数が 1 3 0 9 人であるのに対し死亡数は 8 1 0 人と、「若いまち」である。
- ・草津における幼稚園・保育園の歴史について。大正に 2 つの民間幼稚園、昭和 3 0 年に笠縫幼稚園といった公立幼稚園、その後に民間保育所、最後に公立保育所ができた。意外と公立保育所の歴史が浅い。
- ・保育所と幼稚園の違いについて。

	幼稚園	保育所
根拠法令	学校教育法（＝学校）	児童福祉法（＝児童福祉施設）
対象者	満 3 歳から小学校入学前であれば誰でも可	0 歳から小学校入学前の保育に欠ける乳児又は幼児
教育・保育の内容	幼稚園教育要領	保育所保育指針
保育時間	4 時間が標準。 幼児の心身の発達の程度や季節などに配慮が必要。	8 時間を原則とする 地方の状況等を考慮して保育所長が定める。

- ・認定こども園について。認定こども園とは、①保育の機能②幼児教育の機能③子育て支援機能の 3 つの役割を果たすことが必須で、福祉施設であり、学校である。認定こども園には 4 類型ある。幼稚園として認められているか、保育園として認められているか、それぞれの組み合わせで呼び方が異なる。3 歳を過ぎれば誰でも利用できるが、3 歳未満の保育にかける人も入所できる。職員も保育教諭にかわる。

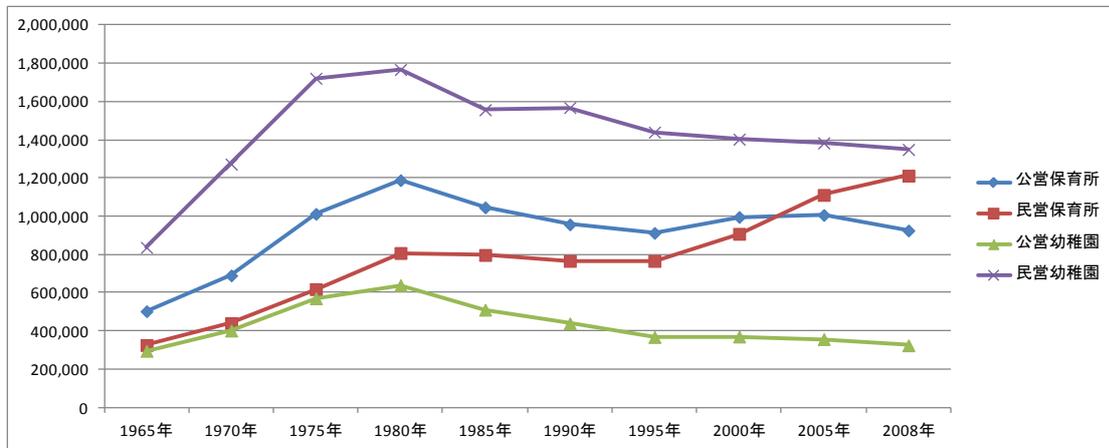
	保育所として認可	保育所として無認可
幼稚園として認可	幼保連携型認定こども園	幼稚園型認定こども園
幼稚園として無認可	保育所型認定こども園	地方裁量型認定こども園

- ・全国的な傾向について。①過疎地では幼稚園が減っている。幼稚園がない地域では、保育所に入る理由がない場合、子どもは小学校まで友達関係の中で育つことができないということになる。過疎問題解決のために幼保一体化を進めていることもある。②都市部では、少子化と就労社会化による幼稚園の利用者減が続き、保育所利用が進んでいる。③就学前児童用施設の民営化が進んでいる。例えば、現在川崎や横浜には公立幼稚園はない。④少子化は今後もすすみ、保育所も幼稚園も減っていく。

・草津市においても、全国的な傾向と同様、民間保育所の利用者数がのびている。

利用児数の動向（全国）

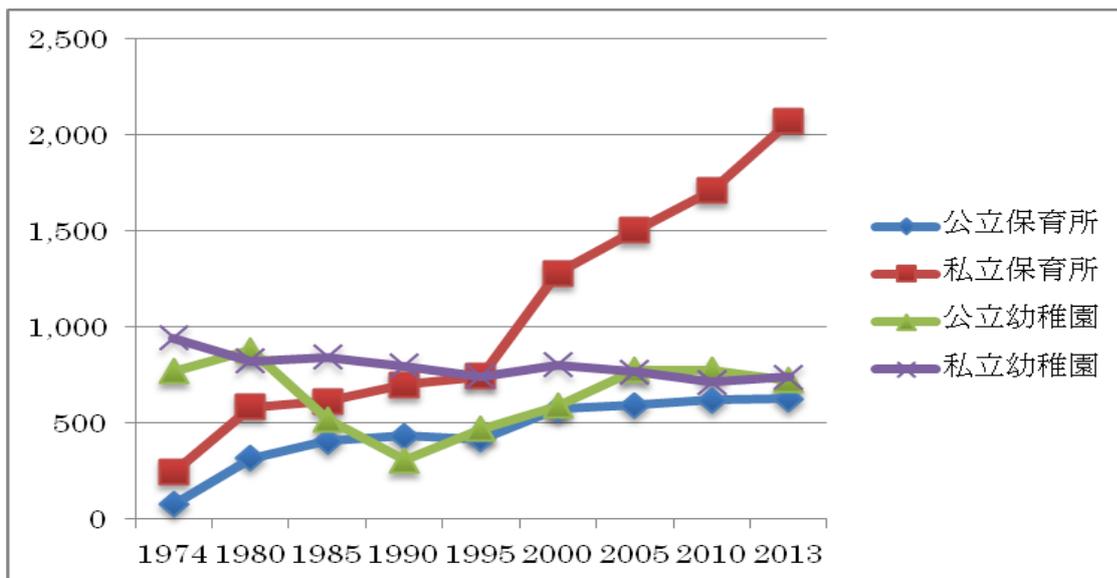
（単位：人）



（出典：シンポジウム資料）

利用児数の動向（草津市）

（単位：人）



（出典：シンポジウム資料／一部編集）

・子ども・子育て新支援について。現在の制度との大きな違いは、①保育所でも幼稚園でもない新しい幼保一体型施設ができること②私立幼稚園の中で市町村の管轄になるところがでてくること③要保育認定が「保育所を利用できるかどうか」ではなく「保育所をどれだけ利用できるか」という設定方法になる。④待機児童対策あるいは過疎地域対策として小規模保育事業が新設される⑤「一時預かり保育」の実施が増える。それに伴って市町村が考えるべきことは、①会議の際には、認可外利用者や在宅子育て層への支援をしっかりと話し合うこと②10年後の子どもや市町村の財政状況を視野にいれた計画とすること。③新しい制度で不利益となる層への配慮をすること④地域全体で子育てを考えること。

(3) 幼保一体化検討委員会中間取りまとめ報告（幼児課長）

(4) パネルディスカッション

<福永>幼保一体化を考えて行く背景として、要保護家庭をどうするかだけではなく、子どもの貧困などのこども支援という部分で保育を考えていく必要がある。

<濱名>自宅で子どもを育てたいという親たちが集える場がない等課題がある中で、幼稚園型の認定こども園は、子ども、保護者をどのように支えるかという部分でかなり充実している。

<斉藤>保護者という立場からみると、論議の以前にまだまだ幼保一体化が浸透していない。草津市の認定こども園についても親のニーズに答え、子どもが中心のものとなってほしい。

<児島>外国籍の方の問題など、多様な支援を必要とする人に対して、保育所、子育て支援センター、幼保一体化施設など、あらゆるチャンネルを保護者が選択できるということが大切。

<山本>幼保一体化検討委員会では9つの課題を提示し、これからの方向性として質の高い教育保育の提供、幼保一体化に対する課題の把握と解決を引き続き検討を進める。

<山縣氏コメント・論点まとめ>

- ①すべての子どもを対象に。事業者が本当にその視点に立ちきれているか。
- ②家庭との関係。子育ては共同作業。児童福祉法は、子育てを補完し家庭と一緒に育てていくもの。
- ③地域との関係。子どもが地域・社会の中で一緒に育っていく場をつくる必要がある。
- ④変化はプラス、マイナスがある。国の動向が曖昧である中でも、プラスを求めていく必要がある。
- ⑤保護者アンケートの結果では、草津市の保護者の5割が幼保一体化を肯定している。ニーズをしっかり汲み取ることが大切である。

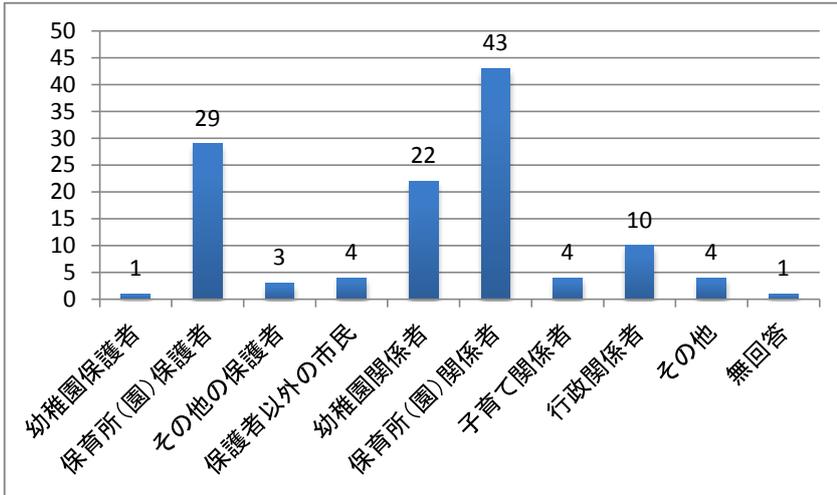
<会場から>

- ・先生方の意見を伺って欲しい。
- ・アンケートは、子どものいる家庭全てに対して実施し、もっと意見を吸い上げて行ってほしい。
- ・設備が変わる際、給食に関しては親も不安に思うので、親対象に説明会をして欲しい。

草津市子ども・子育てシンポジウム参加者アンケート集計結果

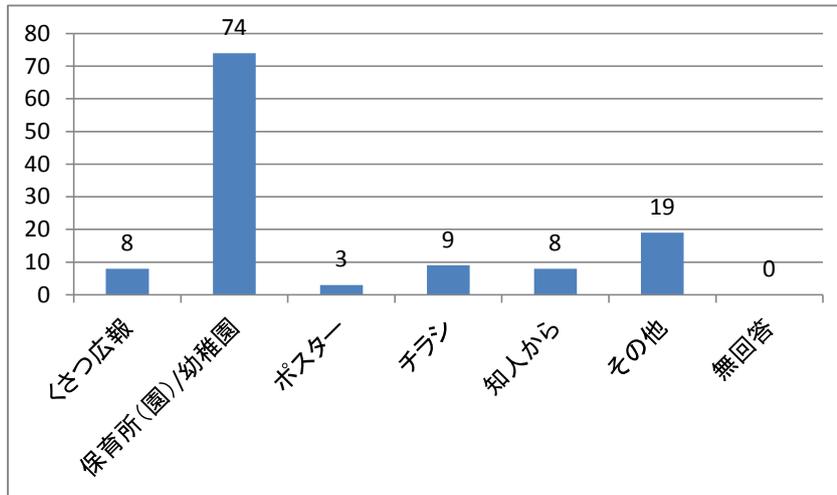
平成25年7月7日開催	
参加者数	約200人
回収数	121人
回収率	61%

1)シンポジウム参加者の内訳



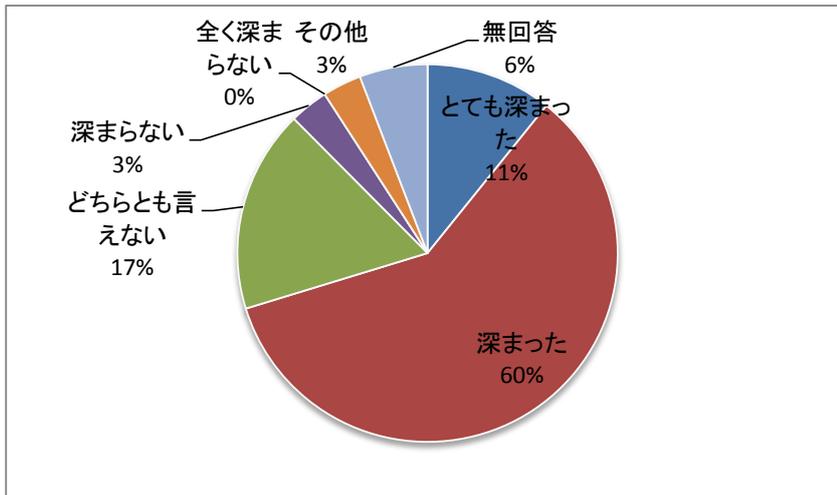
保護者・施設関係者を含め、保育所(園)から多く参加頂きました。

2)シンポジウムをどのように知りましたか



保育所(園)・幼稚園で知った方が多くなっています。

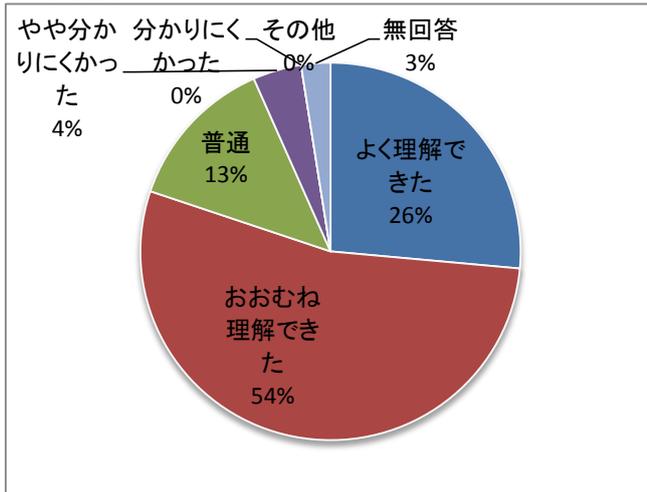
3)シンポジウムに参加されて、「幼保一体化」への理解は深まりましたか



約7割の方が「幼保一体化」について理解が深まったと回答されています。

4) シンポジウムの内容はどうでしたか

a 基調講演

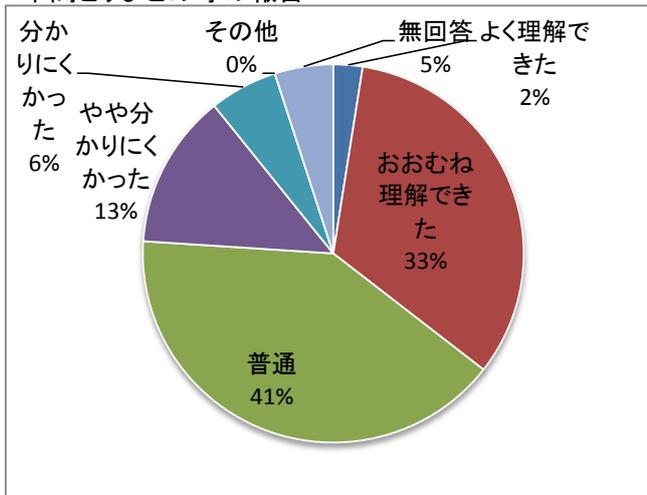


約8割の方が講演内容について「よく理解できた」、「おおむね理解できた」と回答されています。

(主な自由意見)

- ・全国と草津の違いが見れて参考になり、分かりやすかった。
- ・資料では読み取れない部分が理解できた。
- ・この講演を受けて、草津市はどうすべきか考えていくべき。
- ・難しい部分もあったが、国の状況がよくわかった。

b 中間とりまとめ等の報告

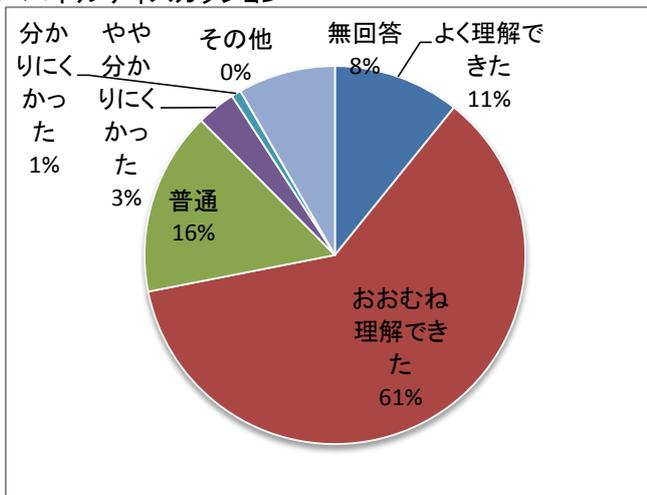


約4割の方が報告内容について「よく理解できた」、「おおむね理解できた」、約4割の方が「普通」と回答されています。

(主な自由意見)

- ・基調講演と重なる部分はその時間をパネルディスカッションに使ってほしい。
- ・資料、数字・グラフが見にくい。コンパクトに分かりやすく説明してほしい。
- ・国制度の説明が多く、今後どうしたいのか市の方向性が見えてこない。
- ・27年度に間に合うのか。

c パネルディスカッション



約7割の方が内容について「よく理解できた」、「おおむね理解できた」と回答されています。

(主な自由意見)

- ・家庭で子育てしているパネラーの意見は新鮮。賛同できた。
- ・保護者意見が分かりやすかった。
- ・草津でどこまで少子化が進むかが分からない
- ・他市町の事例のよい点が聞けてよかった。
- ・様々な立場の意見・思いを聞くことができた。
- ・こども園の事例の話をもう少し詳しく聞きたかった。
- ・パネリスト討議の時間がなかった。

5) その他自由記載の主な意見

(幼保一体化について)

- ・選択できる範囲を広げることには賛成。10年後どうなると予想されるか知りたい。
- ・保護者の選択に応じて、多様な保育施設が必要
- ・働いていない保護者としては、早くこども園ができてほしい。
- ・入所できない人やこれからの幼稚園入所者には幼保一体化メリットがあると思うが、現在、保育所入所者のメリットが見つからない。保育所入所者へもメリットがあるものにしてほしい。
- ・幼保一体化により、待機児童問題がどう変わるか知りたかった。
- ・子ども、保育士に負担のない形で進めていければよいと思う。
- ・認定こども園のメリット、デメリットを理解することができた。

(幼保一体化に対する広報周知や市民への説明について)

- ・幼保一体化に対する浸透性が低い。
- ・幼稚園保護者と保育所保護者で関心に差がある。
- ・保護者が理解できるように、情報発信を広くすすめてほしい。
- ・幼保一体化をする前には、保護者への説明は必須であるし、意見を聞いてほしい。
- ・保育所利用者、利用していない人、保育者の意見を広く拾うことや機会が必要
- ・幼保一体化について、プラスの情報発信も必要であるが、デメリットやマイナスへの説明も必要
- ・幼保一体化をどう進めていくのか、明確にしてほしい。内容が分からないので賛否が言えない。
- ・中々市の考えが伝わってこない。もっと情報発信を望む。
- ・一体化に向けた市のビジョンが知りたい。
- ・子ども・子育て会議の情報を開示してほしい。

(子ども中心の幼保一体化について)

- ・基調講演にあったように、子どもにとってどうか、という視点を忘れないでほしい。
- ・子どもと保護者のことを考えた幼保一体化であってほしい。
- ・「全ての子どもを考える」、これは難しい問題。つい、自分や自分の子どものことで、考えてしまう。
- ・みんなの問題になっていな気がする。自分の子どもだけでなく、全ての子どもたちのためにとの問いかげにはとした。
- ・一体化は難しい問題であるが、子どもたちによりよい環境が整えられるよう、子ども、保育士に負担のない形で進めていければよいと思う。
- ・子どもと保護者にとって、質の高い保育と教育ができる施設が必要

(幼保一体化と施設で働く職員について)

- ・幼保一体化に対する先生の声や意見を聞きたい。
- ・先生のモチベーションや負担軽減の対策、安心して働ける場の提供も必要
- ・幼保一体化に対する議論が施設職員間でも中々深まらない。

(その他)

- ・在宅の子どもへの支援の場がもっと必要
- ・幼保一体化より、公立幼稚園の3年制を進めてほしい。